

『まるごと初級2 (A2)』コミュニケーション活動の実践 — テーマ「自国の料理」の場合 —

ケオケンチャン トンカン

ラオス日本センター

1. 実践コースの基本情報

レベル	A2
実践コース名	初級3
実践日時また期間	2015年3月～2015年7月
授業時間	120分@1コマ、週3回×18週、52回/1学期
授業担当講師	報告者、ケオラコン講師
1クラスの学習者数	9～10人（学期によって異なる）
学習者の属性	年齢：10代～30代 職業：高校生、大学生、社会人
使用教材	『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）初級2 (A2) かつどう/りかい

2. 実践の背景

近年、ラオスでは日本語教育が盛んになってきている。国際交流基金（以下 JF）は、2011 年から、日本語と日本文化をラオスに普及するため、ラオス日本センター（以下 LJI）を日本語教育機関の一つとして支援している。LJI の JF 講座ではコミュニケーション活動（会話中心）から始めるようになっている。つまり、授業では、最初に実際のコミュニケーションに近い活動を行い、それから、文法（言語能力）を教える順序である。現在、入門から初中級まで、教材として『まるごと 日本のことばと文化』のシリーズを使用しており、いずれのコースでも、日本文化を深く理解してもらうために、日本語と共に日本文化の学習の時間も設けている。また、コミュニケーション能力を育成し、その能力を向上させるために、クラス内でさまざまなコミュニケーション活動を行っている。品田（2014）は「海外の教育現場のように、既によく知っている同級生同士で日本語を学習する場合は、自己紹介が必ずしも最初の授業である必要はない。日本人のゲストを招いて活動するといった、日本語で自己紹介をする本物の機会を待ってもよいのではないだろうか。本物の状況とは、その活動全体が本物であることを言う。参加・体験型では、このような観点から、授業で取り上げる状況を選ぶことが大切である」と述べている。また、徳井・榎本（2005）は「コミュニケーションとは、他者との関わりの中で、共有するという行為があってはじめて成り立つ、中国語では、コミュニケーションは『交流』と言います。この言葉もコミュニケーションの本質そのものを意味しているといつてよいでしょう」と述べている。立間（2010）は「交流する機会を作れば学習者の日本語運用機会は十分に提供できるといえる。これは同時に、『②文化的興味、知的好奇心』という学

習動機を満たすことにも繋げられる。」と述べている。そういった考え方にに基づき、日本語の学習者及び、LJIの学習者の現実のコミュニケーション能力の育成を重視するために、LJIのJFコースでは、クラスの中で、外部から日本人ゲストを呼んで、発表会や交流会を行ったりすることが必要ではないかと考えた。期末試験のアンケート調査によると「日本語母語話者と話したい」、「日本のマンガを日本語で読みたい」、「出会った日本人と日本語で円滑なコミュニケーションができるようになりたい」といった意見があった。そのため、LJIのJFコースでは、学習者が学んだことを活かし、現実のコミュニケーション能力の育成を行うために、トピックに合わせて、クラス内で特別なコミュニケーション活動の授業を設定している。この特別なコミュニケーション活動の時間は、入門から初中級まで、すべてのレベルで設定されている。表1は、初級3クラスで、『まるごと』初級2の初級A2 かつどう／りかい（トピック1～5まで）に合わせて行った特別なコミュニケーション活動の内容の例である。

表1 2015年3月から2015年7月まで、初級3クラス・特別なコミュニケーション活動例

レベル	項目	言語活動		『まるごと』初級2の課	授業での活動内容
初級2 (A2)	① スピーチ	産出	書く 一人で言う	自己紹介スピーチ (第1課)	原稿(メモ)を準備し、印象に残る自己紹介スピーチを行う
	② 作文 (スピーチ)	産出	書く 一人で言う	私の趣味(第1課)	作文を書いて、クラスでスピーチをする
	③ スキット 作成	産出	書く 会話する	レストラン(第3課)	レストランの場面での会話スキットを作成し、発表する
	④ 作文 (掲示物 ／文集)	産出	書く グループで 言う	お勧めのレストラン (第3課)	掲示物か文集を作成し、日本人ゲストに紹介する
	⑤ 作文 (スピーチ)	産出	書く グループで 言う	料理紹介(第4課)	自国の料理の特徴や食べ方を日本人ゲストに紹介する
	⑥ プレゼン テーション	産出 やりとり	書く グループで 言う	お勧めツアー (第5課)	お勧めのツアーを考えて、日本人ゲストに紹介する
	⑦ 交流活動	産出	書く グループで 話す	日本の観光地について (第5課)	日本の観光地についての質問を書き、それをもとに日本人ゲストが答える
	⑧ 交流活動 文化体験	産出 やりとり	書く 話す	交流会企画・実施 (第8課)	日本人との交流会を企画(例「料理教室」「学校訪問、文化紹介」)、実施する
	⑨ メール (成果物)	産出	書く	季節の挨拶カード (第9課)	季節のあいさつのカードを、近況報告などのメッセージを入れて作成、実際に交流会に参加した日本人ゲストに送る

3. 活動の紹介―④作文（スピーチ）

本報告では、表1で示した活動例のうち、④作文（スピーチ）の実践を紹介する。この活動は、「自国の料理の特徴や食べ方を日本人に紹介できる」ことを目標としている。作文（スピーチ）というタイプの活動は、1学期に2、3回、日本人ゲストを招いて、行われる。

3.1 活動の流れ

このクラスは、初級3と呼ばれるクラスで、教科書は『まるごと』初級2（A2）かつどう／りかいを使っている。学習者数は10名（ラオス人9名、マレーシア人1名）である。活動の前に約2週間、学習者同士2、3人でグループを作り、日本人に勧めたい料理を決めたり、写真やPPTなどを準備したりした。発表内容、PPT、ポスターなどはすべて学習者に任せた。このクラスはマレーシア人がいるグループには、マレーシア料理を紹介してもらった。また、日本人ゲストには事前に、当日プレゼンテーションの審査員をしてもらうことを連絡し、参加してもらった。今回の活動は90分で、自国の料理の特徴や食べ方を日本人ゲストに紹介するという活動である。活動を行う前に、30分程度時間を設け、発表する内容や、パワーポイントとポスターの準備を行ったり、グループごとに座って、発表シートを準備したりした。

前述の通り、当日は日本人ゲスト（留学生5名）が審査員となった。審査員には、どの料理について食べてみたいと思ったかというアンケートに回答してもらい、さらに、プレゼンテーション評価シート（資料1）に回答してもらった。グループ発表は1グループ15分を持ち時間とし、発表の後、質疑応答の時間を設けた。また、学習者にも、他のグループの発表を聞いて、前述のプレゼンテーション評価シートに書くようにさせた。また、最後に、本人による振り返り（資料2）も書いてもらった。



図1 グループ1の発表



図2 グループ2の発表

3.2 最終発表の評価

最終発表の評価には①他者評価と②振り返り（自己評価）の2種類がある。本節では、それぞれの結果について述べ、最後に筆者の観察による感想を述べる。

①他者評価

他者評価は、プレゼンテーション評価シート（資料1）に回答してもらう形で行った。評価項目はI.形式「話し方、ジェスチャー、ポスターやPPT」とII.内容「分かりやすかったか、内容に興味を持てたか、質問によく答えられたか」であり、それぞれの項目に対して、各3点満点で評価を行った。前述の通り、審査員5人の評価と、学習者6人が学習者同士で評価したものがある。各グループの獲得した発表評価点数は表2の通りである。今回は4グループが発表を行ったが、その発表評価はおおむね高かったといえる。審査員5人が各グループに与えた得点の平均は、18点満点中13.5点（74.7%）であり、学習者同士の評価に関しても、平均は18点満点中14.3点（79.4%）で、いずれも70%を超えていた。

グループの番号	料理の名前*	審査員5人の評価			学習者同士6人の評価		
		合計得点(満点90)	平均点	%	合計得点(満144)	平均点	%
1	ケーンノーマイ	72.0	14.4	80.0	87.0	14.5	80.6
2	パンパー	59.0	11.8	65.6	83.0	13.8	76.9
3	トムカイ	59.0	11.8	65.6	78.0	13.0	72.2
4	ナシルマツ	79.0	15.8	87.8	95.0	15.8	88.0
平均		67.3	13.5	74.7	85.8	14.3	79.4

*「ケーンノーマイ」は竹の子スープという意味である。

「パンパー」はレタスに焼き魚やトマトや野菜、いろいろなものをいれて、巻いた食べ物である。

「トムカイ」はとりにくスープである。

「ナシルマツ」はマレーシア料理である。

今回の発表に関して、点数以外にも、審査員と学習者からコメントを集めた（資料4、資料5参照）。以下、その内容からわかったことについて述べる。

<審査員のコメントからわかったこと>

コメントから、審査員が、各グループのパワーポイントの間違が多いこと、学習者が円滑に話せていない、また、質問を理解することができていないという印象をもったことがわかる。今後は発表する前に、教師が学習者の発表原稿やパワーポイントのチェックをある程度行う必要があるかもしれない。また、発表練習などを行う時間を十分設ける必要があると考える。

<学習者のコメントからわかったこと>

学習者同士のコメントにはジェスチャーの練習をもっとしたほうが良いというコメントが複数あった。評価項目には「ジェスチャー」も含まれる。今後は練習のときに、日本語だけではなく、ジェスチャーや視線など、内容をよりわかりやすくするための発表の仕方にも焦点を当てる必要があると考える。

②振り返り（自己評価）

対象クラスは10名であるが、④作文（スピーチ）の活動では、欠席者が2名いたため、8名だけがプレゼンテーションを行った。振り返りの評価は「話し方、ジェスチャー、ポスターやPPT、質問に答えられるか」の項目に対して、それぞれ3点満点で自己評価を行った。結果は表3の通りである。65%以上の評価を行ったのが8名中5名で、残る3名は60%未満の評価であった。

表3 振り返りの評価（自己評価）

学生	合計	総計
	12	100%
S1	8	66.7
S2	10	83.3
S3	7	58.3
S4	7	58.3
S5	10	83.3
S6	9	75.0
S7	6	50.0
S8	8	66.7
平均	8.3	68.8

<学習者の振り返りコメントからわかったこと>

学習者には、振り返りの際、コメントも記述してもらった（資料6）。コメントには、審査員の質問にうまく答えられなかったことに言及するものが多かった。話す練習や質問に答えるための練習などを工夫する必要があると考える。

③筆者の観察によるコメント

次に筆者の観察によるコメントを以下にまとめる。

このクラスの学生にとってプレゼンテーションは初めてだったので、学習者の中には非常に緊張した人がいたり、暗記にたよる人がいたりして、それぞれに難しかった様子がうかがえた。しか

し、全体として、良い経験になったと思う。

先学期に別のクラスで同じ発表を行ったときは、発表時間10分で行ったが、今回の発表時間は15分と時間を長くしたので、少し余裕ができたせいか、発表の流れが良くなった。

一方、発表準備の時間は設けたが、それでも、十分に練習できず、発表の流れを間違えたり、内容が少なく、発表そのものの時間が短かったグループもあった。

また、事前に教師がすべきことについても気づくことができた。たとえば、事前に教師がパワーポイントのチェックをしなかったため、誤字や説字がそのままになっていたものがあった。さらに、発表の仕方を詳しく説明しなかったり、発表後に質疑応答があることを知らせなかったりしたことが原因で、質問にうまく答えられなかった場合もあったのではないかと考える。事前に日本人に学習者の日本語能力のレベルを伝えていなかったことも、日本人の質問が難しすぎた原因の一つと考えられるかもしれない。

これらのことから、このような活動の場合、ただ発表させるだけでなく、教師による発表前の準備や支援も大切なプロセスだと考えるようになった。

4. 考察とまとめ

『まるごと』で学んでいる学習者が実際にコミュニケーションができるか、授業以外にどのように日本語を使えるかを実感してもらうために、この活動を行った。また、海外で働いている日本人と話せるようになることや日本文化について深く理解することを目標とした。

準備のプロセスで学習者たちはグループで協力しながら、グループの発表内容を考えたり、ポスターや PPT などと一緒に準備したりしていた。審査員はそもそも彼らが紹介した料理に興味を持ったようである（資料3）。ある審査員のコメントに、「写真を使っていたりして、興味を持ちました。食べてみたい。質問にもすらすら答えられていた。他の料理も説明してもらえるとよりよくなると思う」、「話し方が流ちょうで良かった」というものがあった（資料4参照）。これは審査員の満足度が高かったことを示すものであると考える。学習者同士のコメントも「質問に答えられて良かったと思う」（筆者日本語訳）という意見があった。その反面、パワーポイントの誤字が目立ったり、発表の内容が不足していたり、質問が理解できない場合もあった。また自己評価のコメントは「緊張して、うまくできていなかった。練習することが必要だ」（筆者日本語訳）という意見があった。これは今後の活動において、発表のために、練習時間を十分設ける必要性を物語っているものとする。

学習者に、今回の日本人が参加した活動について感想を聞いた。学習者たちは「円滑に発表できなかったが、日本人と活動できる機会ができた」、「新しい経験になったし、これからも日本語がうまく話せるように一生懸命練習したい」、「今回の発表は日本人の前で初めてだったので、緊

張のあまり、質問に答えられなかった。しかし、日本人と活動するのは知らない日本のこと、特に日本語の使い方がだんだん分かるようになった」（筆者日本語訳）という意見があった。これは、日本人と行う活動の大切さが分かったからではないかと考える。

5. 今後の課題

最後に、今後の課題として残された問題について述べる。日本人の参加者を集めることが難しいため、そのための労力や時間がかかってしまう。無理をせず、しかし必ず1学期に1回だけでも良いので、日本人と活動するという方針で行うのが良いのではないかと考えている。また、教師の役割や活動の計画や発表時間の練習などの設定をもう一度見直す必要がある。さらに、学習者の質問に対する答え方の練習も組み込めるよう、計画を見直す必要もある。

[参考文献]

- 立間智子 (2010) 「ピア・ラーニング利用による自律学習、協働的学習を促す学習環境デザインの試み—アゼルバイジャンにおける日本語学習者と邦人との交流活動「日本語会話クラブ」の実践—」『国際交流基金 日本語教育紀要』第 6 号、139-155
- 品田潤子 (2014) 「コミュニケーションのための日本語教育 —活動に参加して学ぶ、体験を通して学ぶ—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第 11 号、1-12

B3 クラス「ラオス料理紹介」プレゼンテーション評価シート

発表名：_____

I. 形式

- ① 話し方（声の大きさ、スピード）はどうだったか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）
- ② ジェスチャーは効果的だったか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）
- ③ ポスターやPPTの作成がよくできたか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）

II. 内容

- ① よく 分かりやすかったか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）
- ② 内容に興味を持てたか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）
- ③ よく 質問に 答えられたか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）

III. 質問・意見・アドバイス

B3 クラス「ラオス料理紹介」ふりかえりシート

発表名： _____

IV. 自己評価

- ④ 話し方（声の大きさ、スピード）はどうだったか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）
- ⑤ ジェスチャーは効果的だったか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）
- ⑥ ポスターやPPTの作成がよくできたか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）
- ⑦ よく 質問に 答えられたか。
- a. 普通（☆） b. 良い（☆☆） c. とても良い（☆☆☆）

V. どんなところをもっとかえたいですか。

資料3：日本人審査員へのアンケート

『発表の中でどの料理を食べてみたいですか。なぜですか。』

1. 色々な種類のケーンノーマイがあることを知ってトライしてみたいと持った。地方によっても味が違うということを知って興味を持った。ありの卵が入っているケーンノーマイに挑戦したいです。いろいろな人の好みのケーンノーマイも知りたいと思った。
2. ケーンノーマイの種類がたくさんあって、食べ比べてみたいと思った。各地方によってどんな味がするか知りたくなった。
3. 市場で魚を売っているのは見たことがありましたが、ラオスの人がどうやって食べるのか知りませんでした。食べ方を今日知ることができたので、試してみたくなったからです。また、友達とピクニックに行って、みんなで食べたら楽しそうだったからです。
4. ラオス料理は大体食べたから、マレーシア料理を食べてみたいかな。ジェームスさんから、「ナシルマツ」というご飯を紹介してくれたので、今度作ってほしい。
5. ラオス料理も大好きですが、正直に言うとラオス料理はいつも食べているので、マレーシア料理を食べてみたいと思ってしまいました。中華やマレーなどのミックスされた料理にとってもひかれました。だけど、どのグループもよく発表で来ていて、とても美味しそうでした。

資料4：審査員5人のコメント

グループ名	各グループの質問・意見・コメント
ケンノーマイ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ちゃんと質問応答できたので、とても良かった。ただ、パワーポイントの中身がすこし誤字があったのが残念だ。 2. 2人とも笑顔で紹介していてよかった。 3. 話し方は少し間違っているところがあった。例えば「辛くて酸っぱいです」。でも、日本人は理解できるくらいの間違いだ。 4. パワーポイントで間違った単語があった。例えば「かぼちや」→「かぼちや」 5. PPTに字の間違えがあった。「かけのこ」→「たけのこ」、ありがとう→「ありがとうございます」など・・・。PPT自体はすごく分かりやすかった。はきはきしていたし明るい発表で楽しかった。2人のコンビネーションも愛らしかった。ケンノーマイにも様々な種類があることが分かった。 6. PPTで間違っているところがあった。とぼしてしまったPPTがあった 7. 地方によっていろいろケンノーマイがあることをはじめて知ったので、驚いた。教材の説明はよかった。あと作り方の説明もあるともっと良かったと思った。ケンノーマイ食べたくなった。
パンパー	<ol style="list-style-type: none"> 1. ××××さん：よく頑張った！ 2. △△さんは紙を見ても良いので、すらすら言えるようになりましょう！ 3. ○○○○さんはおもしろかった。 4. 全体的には話す練習をたくさんしましょう。みんな（言う読む） 5. 話すときに助詞が抜けやすい。声の大きさが聞きやすくて良かった。 6. 話し方が時々つまってしまっていた。 7. 自分の体験をおりまぜていて良かった。（○○○○さん） 8. 質問を理解することができていなかった。暗記しようとしていたのはすごい良かった。もっと暗記できていたら更に良かったと思う。△△さんのキャラクターがすごくかわいらしかった。PPTにパンパーに使う野菜の説明もあったらもっと良かった。 9. 写真が大きくてみやすかった。お勧めの市場も紹介していて良かった。場所を説明できるともっと良くなると思う。 10. 食べるときのシチュエーション紹介が面白かった。発表はとても良かったので、質問にもっとスムーズに答えられると良かったと思う。

<p>トムカイ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 美味しいのは良く分かった。質問にもう少し答えられると良いなあ。 2. ◇◇さん：とりにくの発音がとても良くおもしろい！ 3. □□□さん：質問にちゃんと答えられていたので、良かったと思う。 4. 紹介が分かりやすかった。原稿を見ないで言えればもっと良かった。 5. 質問の答えで例がたくさんあればよかった。 6. 質問にただしく答えられていました。食べ方を詳しく説明しいた。 7. 間違いがほとんどなかったなので、聞きやすかった。 8. 話し方がはきはきして聞いて聞きやすかった。発音もきれいだった。発表のときにポスターも有効活用できていればより良かったと思う。
<p>ナシルマツ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一番プレゼンテーションっぽかった。とてもお腹がすいた。映像もあって、イメージしやすかった。ビデオの解説を自分でするともっと良かったと思う。全体的にとっても良かった。話し方やパワーポイントの使い方、最後にビデオを使用したり、マレーシア料理とくにナシルマツ。食べてみたいなど思った。ただビデオも長い、しかも英語。日本語のビデオだったら、なお良かったかな。 2. 語訓が少し違った。例えば「定番の朝食」「朝食の定番」。話し方が流ちょうで良かった。動画を使って良かった。でもすこし長かったので、日本語を話す時間がもう少し長くても良かったと思う。 3. 動画が少し長かった英語の映像だったのが少し残念。発表は分かりやすく良かった。声も大きくてよかった。動画をみていて食べたくなった。 4. ビデオを使っていたり、写真を使っていたりして、興味を持ちました。食べてみたい。質問にもすらすら答えられていた。他の料理も説明してもらえるとよりよくなると思う。

資料5：学習者同士6人のコメント（筆者日本語訳）

グループ名	各グループの質問・意見・コメント
ケンノーマイ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質問に答えられてよかった。 2. 面白かった。質問に答えられたらもっと良いと思う。 3. 全体的に良かったと思う。ジェスチャーを練習するの良いと思う。 4. 紙を見ないで発表するの良いと思う。ジェスチャーももっと練習すると良いと思う。話し方は良いと思う。ジェスチャーや質問を練習すると良いと思う。
パンパー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質問にラオス語を使いすぎると思う。 2. 質問に答えられて良かったと思う。言葉が覚えられないため、質問によく答えられなかったと思う。ジェスチャーをもっと練習するとよいと思う。
トムカイ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質問に答えられて良かったと思う。写真が遠かったので、はっきり見えなかった。写真がちょっと少なかった。はっきり見えなかった。
ナシルマツ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオが長かった。質問によく答えられて良かったと思う。 2. 自然にプレゼンテーションできたと思う。

資料6：学習者の振り返り（筆者日本語訳）

No	名前	どんなところをもっとかえたいですか
1	S2	質問に答えられなかった。
2	S3	PPTと発表したかたはまだできていなかった。ラオス語も含めて話したので、よくないと思った。
3	S5	日本人が質問するとき、よくわからなかった。もっと答えられるように頑張りたい。
4	S6	質問にまだ答えられなく、残念だった。今度、上手に発表できるように頑張りたい。
5	S7	緊張して、うまくできていなかった。練習する必要があると思った。質問にちゃんときれいに答えられなく、残念だった。
6	S8	発表の仕方や質問にうまくできるように頑張ります。